**（弥生時代の越前敦賀と若狭）**

**弥生時代の若狭・敦賀地方**

**概要**

弥生時代（紀元前400年～300年）は、狩猟採集社会から農耕社会へ移行したことが特徴です。この時代に、水田稲作法や、青銅や鉄の金属加工技術がアジア大陸から九州北部に伝えられ、そこからそれらは九州南部へ広がり、本州と四国へと広がりました。弥生時代のいくつかの重要な遺跡が小浜平野と敦賀平野で発見されており、階級社会が徐々に出現してきたことなど、この地域で起こった社会的、技術的、文化的発展に関する貴重な洞察を提供しています。発掘された集落からの品物の中には、他地域との繋がりの証拠を提供するものもあります。

**もっと詳しく知る**

**技術の進歩**

**弥生土器**

縄文時代（紀元前13,000年～紀元前400年）の例と比較すると、弥生土器は一般的に、装飾が少なく、すっきりとした機能的な形でした。土器の成形過程はほとんど同じままで、長い粘土の紐を輪にして積み重ね、目的の物を形成しました。容器の表面は滑らかにされ、鋭い道具を使って外側に簡単な模様が刻まれました。しかし、より多様な目的を反映して陶器の種類は増加し、調理用のかめ、保存用の壺、鉢、脚付きの坏などがありました。

**アジア大陸からの鉄・青銅製品と金属加工の発展**

この時代、日本列島に、武器や儀式用の道具（銅鏡や銅鐸など）など、さまざまな鉄や青銅の物品がもたらされました。その後、弥生時代の職人たちは、輸入された原料から武器や道具、祭具などの品物を作成するために、金属加工技術を発達させていきました。

**銅鐸とその他の祭具**

弥生時代に作られた青銅の鋳物で最も特徴的なのが、銅鐸と呼ばれる儀式用の鐘です。それらの鐘の表面にはさまざまな文様があり、時には動物や人物が描かれていました。銅鐸は実際に鐘として使われたものもあれば、そうでないものもあったということを示す証拠もあります。銅鐸の正確な用途について、確証されていることは少ないのですが、豊作を祈る儀式に使われたと推測されています。その他に、朝鮮半島から輸入された青銅や鉄の剣と戈の刃の形を模して、石を研磨して作られた武器型の石器も祭祀用と推定されています。

**敦賀の遺跡**

弥生時代中期にできた吉河遺跡は、敦賀平野の南東の端に位置しています。遺跡の北部は居住域であったことが、竪穴式住居や、地中に刺された木造の柱を使って建てられた床が地面または地面よりも高い建物の遺跡によって証明されています。南部は墓域で、簡易な墓穴と、影響力のある一族を収容するためのものと考えられる大きくて溝で区画された方形の墓がありました。後者の埋葬形式は、弥生時代に特徴的だった様式でした。この場所で出土した遺物には、土器や磨製石器、、祭器、様々な製作段階にある管玉、そして管玉を作るための道具類が含まれていました。

**小浜の遺跡**

2005年～2008年に発掘が行われた府中石田遺跡では、多くの重要な考古学的発見がありました。この発見には、若狭地域で最初に発見された溝で区画された方形の墓と、北陸地方で最初に発見された木製の棺が含まれていました。69棟の構造物に使われた木製の柱約120本がこの遺跡から出土し、弥生時代の柱を基礎にした建物の構造に関する貴重な資料が得られました。集落の南部には、底部に基本的な浄水装置を備えた井戸がありました。加えて、関西地方の弥生遺跡に典型的なタイプに似た巴形銅器と、主に本州西部にある中国地域と四国で見つかった分銅形土製品が、福井県で初めて府中石田遺跡で発見されました。

**展示品**

このセクションでは、若狭と敦賀地方で発掘された、新しい道具、技術、土器の形式の出現を反映した弥生時代の遺物を展示しています。府中石田遺跡から出た木棺はおおよそ紀元前300年～紀元前200年のもので、大きな杉板を使って作られています。底板には棺を持つための取っ手と思われる四角い穴が開いています。府中石田遺跡と吉河遺跡から出土した二組の、かめ、壺、脚付きの坏、そしてその他の土器は、比較的に近接したこの2つの弥生集落それぞれが、他の地域から受けた影響を反映した土器の形態の違いを示しています。

吉河遺跡で発見された石の小刀は、朝鮮半島からもたらされた金属の刀に基づいて作られました。展示されているさまざまな矢じりは、製造方法と材料の段階的な発展を表しています。石の一部を削って作った葉形や三角形の石鏃は、古い技法を示しています。研ぎ出された三角形の鏃は、弥生時代に出現した新しい技法を示しています。最後に、青銅の矢じりは、当時の最新技術である金属加工の一例です。吉河遺跡の出土品を使って、碧玉の管玉を作る工程を紹介しています。発見された道具類と、完成までのさまざまな段階にある多数の管玉は、管玉製造がこの遺跡の一部の住人たちの職業であったことを示唆しています。鳥の形をした土製品の欠片は、吉河遺跡から出土したもう一つの注目すべき品物です。